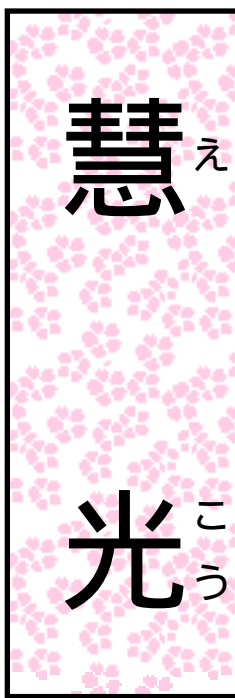




愛らしい花、フロックスといいます (7日 藤岡富士子家で撮影)



金光寺寺報
第181号
発行所 金光寺
宮崎県西臼杵郡
五ヶ瀬町大字鞍岡
5927番地
0982
83-2338

今月のことば

往くも還るも他力ぞと ただ信心をすすめけり

今月の法語は、七高僧の第三祖であります曇鸞大師(476~542)の教えを称えられたご文の意識です。これは、「正信偈」のなかの、往還回向由他力 正定之因唯信心 (往還の回向は他力による。正定の因はただ信心なり。)

法語の「往くも還るも」という言葉は、往相・還相のことです。簡単に述べますと、往相とは、この私が浄土へ往生するはたらき、ちからのことであり、また還相とは、この私が浄土へ往生した後に、迷いの世界であるこの世へ還ってきて衆生を済度するはたらきのことです。この「ちから、はたらき」すべてが本願力回向だということです。それを「他力」というのです。そもそも仏教一般では、この私が積んだ善根功徳を他の人のために施すことを回向と言います。

しかしながら、私どものような凡夫がいくら死にもものぐるいで精進したとしても、煩惱がある限りは雑毒の善でしかなく、かたちだけの中味のない虚仮の行と言わざるを得ません。回向の主体は阿弥陀如来の本願力ということですから、また私たち凡夫が、必ず往生させていただく身と定まるのは、ただ信心一つによるということでしょう。往相も還相もともに阿弥陀如来のおはからいであつたと述べられておりますから、私の方ですることは、いただくこと以外の他のことはありません。このいただきぶりを信心と申し上げるのです。

親鸞聖人は、阿弥陀如来のみ教えに心身をゆだねること、すなわち信心ひとつを勧められたのです。

(本願寺出版社刊「大乘」誌より転載)

仏事お休みのお知らせ

下記の日は緊急を除き、仏事は行いません。ご協力をお願いします。

7月	26日(火)	終日
	27日(水)	終日
8月	2日(火)	終日
10月	15日(土)	午後
	16日(日)	終日

6月、次の金光寺門信徒の方がご往生なさいました。謹んでお悔やみ申し上げます。

2016年	6月	9日	寂満	73歳
三ヶ所	藤本	誠二	様	
2016年	6月	15日	寂満	90歳
東光寺	長澤	キクエ	様	

ホームページ開いています。
URL <http://konkhoji.jp/>
7月7日現在 アクセス数 77,617人

仏教用語豆辞典

長者 ちやうじゃ

長者番付がテレビや新聞紙上を賑わしています。正確には、昨年度高額納税者一覧ですが、やはり長者番付の方がなじみやすいようですね。

億万長者というように、長者は一般に、富豪や資産家を意味します。仏典にもよく長者が登場します。祇園精舎建立に努力した給孤独長者や、『法華経』の長者窮子の喩えに出てくる長者など、おおむね、福徳を兼ね具えた資産家です。もともと、「長者」は古代インドの語で「グリハパティ」といい、家長を意味し、バラモン教の祭祀のときに、席に座る家長たちの最長老を指しました。この祭には、高額の出費がかかり、資産家でないとは勤まらない

ところから、資産家の意味になつたようです。長者は、そのほかに、丈の高いや、年寄いた人、徳の高い人、京都東寺の長なども意味し、広く用いられています。長者三代といいますが、今回の長者番付を見ると、三代どころか、中には一年長者も多く、なんと、めまぐるしい世の中ですね。(本願寺出版社発行「仏教用語豆辞典」一〇〇PARTから) 辻本敬順著

住職ひとりごと

本堂と庫裡の間に銅板拭きの雨受けがあります。ここ数年、大雨時や大雪時に雨もりし、天板上が変色してしまいました。それが、今度の大雨で下にふくらみ始め、とうとう、先月三十日に一番状態が悪いところが落下しました。すぐに工務店に修理の依頼をしましたが、その後、落下部分の下から見るとかなり光が差し込みます。よくよく見ると、本堂と庫裡の屋根の重なり合っている部分に空間があり、そこがふさいでありませんでした。時々、庫裡の屋根裏を猫や正体不明の小動物が走り回り、侵入口がわからず対処に困っていたのですが、今回の騒動で侵入口が判明しました。雨受けの修理は終わり、次回の雨降りでも張替えしてもらいます。その際に侵入口もふさいでもらおうと思つています。これからは天井裏での動物たちの運動会もなくなると思つてほっとしています。それが無くなったのは、鞍中の運動会が練習・本番の喚声が聞けません。(住職 松井卓郎)

無量寿に聞く

ここ数日、気温の高い日が
続いていきますね。それもその
はず、今月四日から三日続け
て真夏日になりました。

日中だけならいいのですが、
夜も暑く、一昨夜(五日)昨
夜(六日)と二日寝苦しい夜
を過ごしました。

まだ七月になったばかり、
夏本番のこれからどうなるの
か、頭が痛くなりますね！

こうなると気温を下げるよ
うな夕立が欲しいと思ってい
ます。

先の連日の雨降り時は「も
う雨はいらない」と言ってい
たのに、そんなことは既に忘
れ、自分勝手な思いをする私
にあきれます。

暑い夏になると七高僧のお
一人、曇鸞大師ご著作『往生
論註』の中

「蟪蛄は春秋を識らず」と
いふがごとし。この虫あに
朱陽の節を知らんや。
(『注釈版聖典』七祖篇
九八頁)

の告示しを思い出します。

蟪蛄とは蝉のこと、朱陽の
節とは夏のことです。このこ
文の意味は

夏に生まれ夏の間に命を
終えていく蝉は、生まれ
る前の春と命終えた後に
訪れる秋を知らない。そ
の蝉自身が、今生きてい
るこの季節を夏であるこ

とをなぜ知ろうか？

となります。

生まれる前も、死んだあと
のこともわからないものには、
今生きていることの意味はい
くら考えてもわかりはしない
のだと、おっしゃっています。

よく「死んだらお終いだ」と
という言葉が聞きます。まさ
に生まれる前も、死んだ後の
こともわからないから、今生
きていることの意味は考えて
もわかりはしないと開き直つ
て生きてしまうのが、悲しい
私たちの姿なのです。



では、考えてもわからない
ならどうすればよいのでしょ
うか？わからないことは聞け
ばいいのです。じゃあ何に聞
くか、それは私の命を貫き通
す永遠のいのちに聞くのです。

その永遠のいのちを、私た
ちは「無量寿」と言い慣わし
ています。

私たちが浄土真宗のみ教え
を聞くということは、無量寿
によって知らされる私の生き
ることの意味を聞くと見えま
す。

阿弥陀さまは無量寿・無量
光の仏さまです。その慈悲
をいただく私たちは浄土へ救
われて無量寿とならせていた
できます。

うだる暑さに辟易しますが、
その暑さと闘いながら、「無
量寿」のお心にふれ、私の生
きる意味を考えてみたいもの
です。

法語の世界

〈原文〉

人のわるきことはよくよくみゆるなり。わが身のわる
きことはおぼえざるものなり。わが身にしられてわる
きことあらば、よくよくわるければこそ身にしられ候
ふとおもひて、心中をあらたむべし。ただ人のいふこ
とをばよく信用すべし。わがわるきことはおぼえざる
ものなるよし仰せられ候ふ。

(蓮如上人御一代記聞書 百九十五)

〈現代語訳〉

「他人の悪いところはよく目につくが、自分の悪いところ
は気づかないものである。もし自分で悪いと気づくようであ
れば、それはよほど悪いからこそ自分で気づいたのだと
思つて、心をあらためなければならぬ。人が注意してくれ
ることに耳を傾け、素直に受け入れなければならない。自分
自身の悪いところはなかなかわからないものである」と蓮如
上人は仰せになりました。

伝灯奉告法要に参加しませんか

明年四月二日から二泊三日で専如門主法灯継承を
奉告する伝統奉告法要に高千穂組から団体参拝で参
加しますことはすでにお知らせしていますが、七月
七日現在、申し込みが一人です。

どなたでも参加できます。人数は住職を含んで当
山からは十名の割り当てになっています。参加を希
望される方は早目に金光寺までお申し込みください。
申し込まれた方に詳細の案内をお届けします。

